

地域の総力を結集 日頃の訓練とつながりが有事の際の大きな力に

—— 震災直後の行動を教えてください。

三上 (穂別地区の)
自宅で大きな揺れを感じて、目を覚ました。地震が収まって辺りを見渡すと、家じゅうに物が散乱していたので、怪我をしないよう靴を履いて今後に備えました。



三上 美津江さん

前田 (鵜川地区の)
自宅で休んでいました。2階だったので激しく揺れました。



前田 嗣夫さん

その揺れが収まると、消防団員である息子夫婦が駆けつけてくれました。非常事態であり、家のことを妻に任せて出勤しようとなりましたが、同居している義母の様子が気になって部屋を覗いてみると、倒れたタン

スが顔を直撃する寸前で止まっていました。これは被害者がたくさん出ていると感じ、義母を助けて息子夫婦に任せ、消防団詰所に急いで向かいました。

福田 (鵜川地区の)
自宅で眠っていました。地震が収まってから見渡すと、家



福田 隆二さん

じゅうがぐちゃぐちゃでした。子どもの頃の十勝沖地震を思い出すような揺れでしたが、今回の揺れのほうが大きく感じました。上下に飛び跳ねるような感じでしたね。津波を警戒していましたが、漁師をしている娘婿からの連絡で津波の危険はないことがわかり、自宅で待機して情報収集を始めました。

け。ブラックアウトの中で「この町はどうなってしまうのだろう」と不安な気持ちがかみ上げてきました。巡回をしている時、新聞販売店を営む団員の家が倒壊しているのを発見しました。本人の無事を確認していたが新聞配達に出かけたことで九死に一生を得たそうです。

消防団の全車両を使用して、状況把握にも努めました。赤灯を見ると高齢者は安心するようで、団員に「灯油タンクが倒れたので何とかしてほしい」などの声がかかりましたので、建設協会と共に復旧作業を進めていきました。巡回を行っている中で、高齢者が非常にショックを受けているのを目の当たりにしました。声かけパトロールを行うことはできましたが、非常時であったため、心のケアまでしっかりとできなかったことを反省しています。

福田 待機しているとすぐにむかわ町役場から「協会員(各会社)に連絡を取ってほしい」と依頼がありました。震災復旧業務を行うことは協会として想定していなかったのですが、復旧対応に従事できる会社を片っ端から集めて、町災害対策

本部の指示に従って協会員に動員をかけることができました。

協会員の中には国や北海道の要請を受けて町外の復旧に当たっている会社もありますので、全員を動員するのは困難です。対応可能な会社の人たちと一緒に道路に出来た段差を解消するために土のうを運んだり、倒れた灯油タンクを起こす作業などを行いました。脚が折れて自立しないタンクも多く、4〜5班に分かれ、4日ほどかけて500基くらいは処理したと思います。寒くなる前の時期であり、早朝の大地震であったため、各家庭でストーブやコンロなどを使っていないのが幸いしましたが、倒壊した灯油タンクから灯油が漏れていた話を聞いた時はぞっとしました。建物倒壊が起こったうえに、さらに火災が発生することがなくて本当に良かったです。

—— 消防団は前日まで台風21号を警戒していたそうですね。

前田 いつ災害が発生するかわからない状況だったため、幹部に待機命令を出していました。台風を警戒して待機していたことが功を奏して、震災対応の初動の早さにつ

むかわ建設協会長 福田 隆二さん
鵜川消防団長 前田 嗣夫さん
穂別消防団女性部長 三上美津江さん

—— 長い一日が始まったわけですが、その後の活動をお聞かせください。

三上 昼過ぎにむかわ町役場に到着して、何をすべきか話し合いました。穂別消防団としても初めてのことで、何から始めてよいやら困惑しました。

女性部が炊き出しを担当することになり、早速準備にかかりました。すぐに自衛隊の給水車が到着して、水を供給してくれました。「冷蔵庫が壊れて保存できないから使って」と町内のスーパーから食材、農協から米の提供があり、各自治会から駆けつけていただいた方々と協力して、むかわ町役場に避難された方々に食事を提供しました。

前田 詰所に集まり、4分団に分かれ地域を回りました。町じゅう倒壊した建物だら

なりました。

—— 二次災害防止のためにどのような取り組みが行われましたか？

福田 マンホールが浮き上がって車の走行に支障が出ていたので、砂利を敷いて段差を少なくするなど、危険な箇所を確認しながら応急処置をしました。穂別地区では林道がダメージを受け、河川の護岸ブロッ



土砂崩れで埋まった穂別地区の道路

が倒れるなどの被害を確認しました。土砂崩れが発生しそうな場所はブルーシートで覆いました。作業に当たる者には十分に注意するよう伝えていましたが、危険と隣り合わせの作業だったと思います。

前田 二次災害防止と言えるのかわかりませんが、地震発生後は避難しているお宅を狙った空き巣が出現するため、町外からたくさんの方の警察官が応援に来ていました。土地勘がなく効率的にパトロールができないということから、対策本部を通して消防団に夜間パトロールが要請されました。夜中の0時から翌朝6時まで20日間にわたってパトロールを続けましたが、団員の全員がほかにも仕事を持っているため、負担を強いたと思います。かなり効果があったようで、担当地域で盗難は一切ありませんでした。

——不確かな噂やデマなどもあったそうですが、

福田 「厚真方面から山鳴りがするので再び地震が来る」という噂や「震度5の地震が発生すると、自衛隊や海上保安庁の人が言っているのを聞いた」というデマもあり

——ふだんの訓練などは活かされましたか？

三上 突発的な事態でありながら思った以上にスムーズに対応できたと思います。私たちがやれることは限られています。今後何かが起こっても自信を持って対応できる気がします。

前田 震災で団員の誰もが家庭の心配や先々の不安を感じていたはずですが、そうした中でも、一つの目的に向かって集中できたのは、ふだんの訓練や交流の成果だと思っています。

福田 大雨であれば事前に情報を得られま

すし、それに対して準備することもできませんでしたが、さすがに震災の対策までは想定して

いませんでした。

——今後の課題などがあれば教えてください。

前田 ほかの町の消防団員の中には「うちの町では一度も災害が起きたことがない」などと自慢している人もいますが、どこで何が起きて不思議ではない時代だと思います。今回の地震は深夜で、火を使う時間帯から外れていたため火災は発生しませんでした。

ました。むかわ町では下水処理場の排水管が外れたため、水中ポンプで水を流していましたが、その音に驚いた人が「沖で大きな音がしているから津波が来る」と言って騒ぎになり、実際に避難した人もいるそうです。冷静に考えればわかるようなことですが、当時はそれだけに余裕がなかったのでしょうか。

——発災直後の緊急対応を乗り切ったあとは、災害ごみの処理が課題として浮かび上がってきたそうですね。

福田 災害ごみとなる、倒壊した家屋や散乱した家財の処理をどうするかが話として上がりました。それらの受け入れ場所を早急に決めて、町やいすゞ（北海道試験場）と共に災害ごみの受け入れ、解体、分別作業に取りかかりました。関係者が連携して災害ごみを素早く受け入れることができ、迅速な復旧に貢献できたと思います。

このほかにも、倒壊しそうな家屋や店舗を重機で崩したり、土砂崩れの発生しそうな地域の応急対応を行ったりと、安全確保のために様々な活動を行いました。被災した家屋は崩れる恐れがありますが、個人の

でしたが、大規模な火災が発生した時に消防団としてどこまで対応できるかは、今後の課題です。

福田 建設協会としては「防災意識を失わないように行政が主催する防災訓練に積極的に参加しよう」という話になりました。また「灯油タンクを直しに行った協会員が周りから不審者のように思われた」という報告がありましたので、所属がわかるように建設協会のネームを入れた安全ベストを用意しました。

今後も地域に貢献していきたいと考えていますが、業界として高齢化・少子化により作業員を集めることが厳しくなっており、災害に備えることが年々難しくなっている実情もあります。

——最後にメッセージをお願いします。

三上 全国各地から義援金や支援物資など送っていただき、本当にありがとうございます。一町民として感謝の気持ちでいっぱいです。今後も地域を守る活動が続けたいと思います。

前田 被災はしましたが、このむかわを明るい町にするために町民一人ひとりが手を

財産でもあるため、むかわ町役場でも解体してよいか判断に迷ったようです。町は安全確保を最優先に解体することを決断し、すぐに作業に取りかかりました。協会員からは、本業とは異なる作業のため苦労したと聞いています。



穂別市街の被災状況

つないでいきたいと思っています。これからも頑張ります。

福田 全国各地からご支援いただき、感謝しております。震災は二度と発生してほしくないですが、もし何かあった時はみんなでまた乗り越えたいと思います。ご協力ありがとうございました。



倒壊して「危険」の赤紙が貼られた建物（北海道新聞社提供）